

社会課題の解決に向けた保険の意義と課題：問題提起

早稲田大学

中出 哲

1. はじめに

(1) 時代認識

人類は、これまで文明を大きく発展させてきたが、科学技術の進歩の一方、地球環境の破壊を含む重大な課題に直面しており、これまでの延長ではなく、地球規模での抜本的な取り組みが求められている。とりわけ、わが国は、気候変動、自然災害、防災、エネルギー、食糧自給、少子高齢化など、多くの領域において重大な問題・リスクを抱えている。

SDGsは、これから進むべき方向をゴールとしてわかりやすく示したもので、各種政策や企業活動は、SDGsを視点において、活動を評価し、再構築していくことが有益で、その重要性は、保険事業や制度にも当てはまる。

(2) シンポジウムの意義とねらい

保険制度や産業は、SDGsの推進において重要な役割を果たすことが期待され、これは、保険制度や産業の意義を高めることにもつながる。SDGsに対する取組は、政府、民間会社、地域などの多様な主体との協働を必要とし、その中で保険事業は、重要な役割を担えるかが問われている。外向きの視点に立って社会へ能動的に働きかけていくことが重要である。これは、保険の研究においても同様であろう。シンポジウムでは、SDGsの視点から、損害保険、生命保険、共済事業における取組を確認し、今後に向けた課題を考えていく。

2. SDGsと保険

(1) 保険の事業の特徴とSDGs

保険は、多様な種類があり、事業主体も、保険会社、協同組合、政府・公法人などにわたり、SDGsの17のゴールのすべてに直接または間接的にかかわる。保険の特徴として、個人や企業に安心や安全を提供するインフラとしての性格を有すること、関係し影響する事業領域が広いこと、地理的な範囲も全国の隅々にわたり、世界的にも広がっている点がある。

(2) 保険に対する一般のイメージ

保険は、万が一の場合の重要な制度として、事故後の二次的、補完的的制度として認識されがちである。一般にも保険は重要であるがめんどうくさいものというイメージがないか。保険事業も、保険学も、今日保険が担うべき役割にふさわしい存在であるかが問われているのではないか。

3. SDGsの時代における保険の可能性

(1) 歴史からみる保険の機能の多様性とその発揮

保険は、生活や産業の安定や発展に大きな役割を担ってきたが、その意義を考えるために、歴史の中からいくつかの例を挙げる。

営利事業としての保険は、14世紀に冒険貸借から進化して誕生したと考えられているが、予測が難しい中で商人の冒険を支える制度として海上保険が誕生した。リスクを引き受けることで利益を得る一方、挑戦を支えた。また、さまざまな団体では、その構成員が将来に向けた生活や活動を確保できるように互いに助け合う制度として保険が利用された。

損害保険の歴史をみると、保険金給付に加えて、各種のサービスの提供がなされている例があり、レジリエンスの強化の観点から注目される。例えば、イギリスにおいて火災保険が誕生したころ、公営の消防サービスが存在しない中、保険会社が顧客の財産を守るための消火活動を行っていた。また、ガラス保険、ボイラー保険などは、現物給付や保守点検等により、社会で不足する専門領域を補完した。自動車保険における示談代行サービスなどは、社会におけるトラブルの適正な解決という重要な領域を補完する。技術革新には新たなリスクも併存し、損害保険の新保険はイノベーションを側面から支援してきた。

保険の意義は、こうした保険が提供するサービスを通じた直接的な貢献に留まらない。保険は、保険給付までの時間差を利用した滞留資金の運用により、産業の育成、構造転換、国の財政の安定化においても重要な機能を発揮してきた。

(2) 保険の役割の積極的評価

保険は、これまでも重要なインフラとして、社会において大きな貢献をなしてきたが、社会的課題の解決における保険の意義をより意識した能動的な営みは、ますます重要となろう。その意義を再認識させる重要な契機がSDGsである。SDGsを切り口として、そしてその整理を利用することで、保険制度・保険事業の意義を明確化しつつ、さらに発展させることができまいだろうか。外に向けた働きかけも重要で、保険の視点からの社会的課題の解決策を提言していくことも重要であろう。保険における投融資も、ESG投資の流れをさらに超えて、社会的課題の解決のうえで戦略的に進めていくことが重要である。保険事業・産業は、社会的課題の解決のための能動的な役割を担っていることを意識する時代に入った。

(3) 保険学の可能性

保険は長らく、個人の生活を守り、産業の基盤を支えることで、人類社会を豊かにする役割を担ってきた。世界がSDGsに取り組む今日、保険を通じた社会課題の解決はかつてないほど重要となっている。保険学も、関係する学問領域との協働などにより、さらなる飛躍的発展の可能性があるのでないか。